

春のウォーキング

4月8日、愛媛県松野町にて、黒潮町スポーツ推進委員引率のもと「春のウォーキング」が行われました。絶好のウォーキング日和となり、汗ばむほどの陽気でしたが、時折吹く春の風が歩き疲れた体を心地よく癒してくれました。午前中は、満開の桃や桜並木を觀賞しながら1時間半ほど歩きました。午後からは河後森城跡をウォーキング。地元のガイドさんの丁寧で解りやすい説明もあって、歴史の奥深さ、面白さを再認識したひと時となりました。

次回、秋のウォーキングは11月に実施予定です。



満開の桃の花を背景に集合写真。町全体が桃色に染まっていました。

北郷地区の林道にサクラ植樹



植えたばかりの桜と一緒に参加者みんなで記念撮影。花が咲くのが楽しみです。

3月24日、北郷地区（本谷・大屋式・大井川）の住民らが、本谷から口湊川に抜ける林道沿いに、サクラの苗木50本を植えました。植樹には地区役員や、老人クラブなどから約30人が参加。山道に重機で穴を掘り、1本1本丁寧に植えていきました。植えた場所は、約40年前までは2軒の民家があった所で、住んでいた方は「昔は車の通れる道がなく、ふもとから歩いて行きました」と懐かしそうに話していました。南へ目をやると、遠くに海が見えます。休憩できる広場もあり、桜が大きくなれば、絶好のお花見スポットになりそうです。

春を告げるインド古典音楽会

3月25日、旧北郷小学校体育館にて、「インド古典音楽会」が開かれ、約50人の方が集まりました。主催は住民グループ・北郷里山クラブ。愛媛県出身のシタール奏者・伊藤公朗さんの里帰りコンサートに合わせて、四万十市と黒潮町での音楽会を企画したものです。午後1時、ヨガを取り入れたストレッチの後、ゆったりとしたインド音楽の演奏が始まりました。シタールは、首の長い楽器で、日本に渡ってビワになったそうです。また、タンブーラは、弦を押さえないで同じ旋律を繰り返して引く楽器。スヴァラマンダラは、



シタールを演奏する伊藤公朗さん(左)と、タンブーラを奏でる妻・美郷さん。



休憩時間に、スヴァラマンダラを見せてもらう参加者たち。珍しい楽器に興味津々でした。

弦が36本もあり、ピアノの原型といわれています。インド古典音楽は、即興性が高いのが特徴。1曲目は、森の中で宇宙に思いをはせて瞑想する曲で、もの悲しく幻想的な音色。ほかにも、アレンジ曲や、息子・快さんのギターとの共演など、さまざまな表情の曲を披露してくださいました。

参加者らは、珍しい楽器の調べを堪能した様子で、「いい音楽を聞かせてもらうた」「気持ちよくなって眠くなった」などと話していました。